

社会福祉法人
ミッドナイトミッションのぞみ会



ホーム
ページ
QRコード



ツイッター
QRコード

2023/8/1 No.93

発行者：社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
本 部：〒293-0023 千葉県富津市川名1436番地

ひとは、 人の中でひとになる



評議員
(社会福祉法人チルドレンス・
パラダイス理事長)
森田 雄司

この言葉は、私が大学時代、ボランティアとして施設に住み込むことを許し、児童養護の道に導いてくれた、横浜にあった施設「子どもの園」園長の和田先生の言葉です。もう五十年前前になるが、当時大学は、学生運動の傷はいえておらず、混乱の中にあった。私は児童文化研究部に入部し、人形劇に所属した。新人生とはいえ、先輩諸氏の横柄な態度に我慢ならず、喧嘩の末六か月程で退部した。その後、何もせずぶらぶらしている時に、ボランティア募集の話があり、社会福祉協議会から「子どもの園」を紹介して戴いた。施設は、横浜の伊勢佐木町に近い、日ノ出町にあった。戦争孤児の収容施設として、木造兵舎を移築したもので非常に古く小さい建物でした。その建物に三十人の子どもが四つの部屋（十畳に八人ほど）に分かれ、八名の職員が住み込

み（二畳半の部屋や階段の下の部屋）で一緒に暮らしていました。食堂兼勉強部屋兼娯楽室しかなく、自分の布団に居る以外は、常に誰かと一緒に生活でありました。いつもおねしょのニオイに包まれ、叱られる声や泣き声はいつも傍に聞こえて来ました。毎朝決められた時間に起こされ、和田先生の聖書の言葉を聞き、町内をマラソンしてからの朝食でした。元気に子どもたちが登校した後、ボランティアの私は、そこから学校やアルバイトに行きました。挙句の果てには、教育実習も施設から通いました。そして、教員試験に落ちたことで、千葉の児童養護施設「子山ホーム」との縁をもらいました。子山ホームで七年間指導員をした後横浜に戻り、和田先生の紹介で、家族四人と子ども六人、合計十人の大家族として「横浜市ファミリーグループホーム」の第一号として始めました。今で言う「ファミリーホーム」です。始めてすぐ、指導員時代の癖が抜けず、子どもたちに口うるさく指示する日常で子どもたちから総スカンをくらいました。そこで「父親たるもの外で働くべき」との思いで、縫製工場・日本蕎麦屋・陸送・学童保育の仕事に従事しました。そこで出会った人からの言葉は、今の私の礎となっ

ています。一つだけお話ししますと、いつか卒園生と一緒に店が出せればとの思いから、夜十時までの蕎麦屋を手伝っていました。ある時一人のお客さんが九時半過ぎに来店し、お酒一本で十時を過ぎてもズルズルと居るのです。その姿を見て帰れない私がイライラして「早く帰れば！酒一本で」と呟いていると、蕎麦屋のおやじさんが来て「お客さんに対して、そのように思ってはダメ。あのお客さんが次来る時は、大勢の人を連れてきてくれるかもしれない。だから一人のお客さんでも大切にしなければならぬだよ」と教えてくれました。「一人ひとりを大切に」これは、私の人と関わる仕事の基本となっています。私が出会う人との縁を大切にしていけば必ず次の縁に繋がる。その繋がりには、やがて私の人生の宝となっていく。実際にミッドナイトミッションのぞみ会との縁も、私が縁あって戻ったチルドレンス・パラダイスの理事に、井本先生がいたからです。

当時常務理事の井本先生から「児童養護施設をやるうと思うが、だれか良い人材がいなか？居れば紹介して欲しい」との話が繋がるきっかけで今があります。今思えば、私という人間は、多くの人の中で、多くの人の力

を借りて、支え合って生きて来たのだとつくづく思います。今後も微力ではありますが、法人の評議員として皆さんとの縁を紡いでいきたいと思っています。

東京望みの門 自立援助ホーム マナの家 人は身近にある 小さな喜びで生きている

生活指導員 尾家 美穂

酷暑続く毎日からは恋しくなる様な春とは言え、まだ肌寒さが残る四月一日の事でした。Mudet様からの招待でMISIA（ミーシャ）の歌手生活二十五周年記念コンサートに行かせていただきました。会場の有明アリーナへの入口では寮生、退寮生、現・旧職員がグッズやお土産入りのミーシャのバックをもらい客席へ。中には全員にハチミツ色のペンライトが入っていて、暗闇の中で演奏が鳴り始める



と、手拍子と共に一斉に黄色い光が揺れ始め、会場が一体になるのを感じました。

ステージからは幾筋もの青い光の矢が放たれ、サーチライトで弧を描く様に交錯しながら客席を照らし出していきます。二階席から見下ろしていると、無数の夜光虫が浮かぶ夜の海にいるかの様な感覚になり、幻想的な世界へ誘ってくれました。

ステージのバックライトが中央を照らし始めると、ヒット曲の《エブリシング》の前奏と共に、大きく翼を広げた鳥の背に立つミーシャのシルエットが暗闇から浮び上ります。観客の手拍子は、拍手と歓声に変わりステージの幕が開きました。

天まで届きそうな透き通ったハイトーンボイスで次々に魂のこもった愛の歌を歌う姿にゴスペルを感じ圧巻でした。

声高に反戦を叫ばなくても《希望のうた》には、その切実な想いが込められているのが伝わります。《おはようユニバース》ではパフォーマーの中に男女の車椅子ダンサーや、ギターリスト、サックス奏者も一緒に花道に並びキレのあるパフォーマンスを見せてくれました。《アイノカタチ》では手話で歌詞を表現。《明日へ》では観客も一体となり歌う場面も

あり、ライブならでの臨場感を皆で味わいました。

日頃Popに夢中の十代の寮生たちに公演後の感想を聞くと「良かった」と顔を上気させ感動。ポツリと小声で「私、何してんだろ…。」と就活中の自分の生活を振り返る寮生の姿も印象的でした。

婦人保護施設 望みの門学園

心に入る本読みの会

作業指導員 牧野まさ江

涙を流し、「今日の話もよかったよ。」と言葉を漏らし、その本を繰り返し読んでいる利用者（聞き手）の姿は、尊いものです。感動の余韻は一か月後の次の本読みの会まで、絶える事はありません。「本を読みたい」と言う利用者と、読書教育の大切さを実感している職員のたゆまぬ気持ちが一つになり、本読みの会は誕生しました。

では、このような本読みの会をどう計画し、実践に至っているのか、ご紹介します。

まずは、自分自身が読んで、感動した本を選定します。神話、古典文学、戦争文学、自

然災害文学、伝記、道徳、認知症予防等、幅広い分野から利用者の実態、世の中の動きや季節も加味し、本を選びます。同じテーマの本でも作者により文章表現が異なるため、一つのテーマについて五冊以上は読みます。その中から利用者が、一時間という限られた時間で最後まで興味関心を持ち続けられるように、展開の流れを組み立てます。古典は原文と現代訳の両方を扱いますが、現代訳は原文に近いものを選びます。挿し絵、地球儀、地図、年表も用い、視覚にも訴えて理解を深めます。我が家にある本+図書館の本+古本屋で購入した本+本屋で購入した本と、本探しにも時間をかけます。展開の流れが決まると、次は読み方の練習です。鉛筆で声の大きさ、読む速さを本に



書き込みます。難しい言葉は、分かり易い言葉に直して、説明ができる様に余白にメモをします。ですから本読みの会までの準備期間に一月を要します。

準備が整うと私の心は、ワクワクします。四十一年間の学校教育経験が、再び、望みの門学園で生かされる事に喜びを感じます。

先日、この取り組みは、業務改善提案として優秀賞を頂きました。沢山の奇跡が起きての優秀賞受賞となったものと思います。全ての奇跡に感謝の念が尽きません。

養護老人ホーム 望みの門楽生園

入職して一年が経過して

支援員 石井 智久

今回、このような執筆の機会を与えていただいたこと、そして皆様に支えていただき、入職して無事に一年を迎えられたことに深く感謝申し上げます。

自己紹介が遅れましたが、私は楽生園に配属されました、石井智久と申します。

千葉県富津市生まれの三十九歳になります。介護経験は五年弱の未熟者です。ご縁が



ありまして、のぞみ会に入職させていただいたのが、ちょうど昨年の五月になります。約一年、無事に皆様と過ごすことが出来ました。私が介護職に就いたきっかけが二つあります。一つ目は、幼少期に祖母と過ごす時間が多く、おじいちゃん、おばあちゃんが好きでいつの日か、恩返しをしたいと考えていました。二つ目は、父親と救急車に乗った際に、父親から「人のため、人のお役に立てる人間になれ」と車中で声をかけられたこと。この二つがきっかけとなり、介護職に就かせて頂きました。幸いにも、父親は命に別条なく日常生活に戻ることができました。

楽生園でのお仕事は、支援員という立場でした。支援員という言葉自体、今までの介護現場では馴染みのない言葉でした。調べてみ

ると、楽生園という施設が、どのような方を対象としているのか、また、どのような支援が必要なのか、ということを理解することができました。今まで、排泄、更衣、食事介助のみの現場がほとんどで、利用者様の担当という業務もしたことが無かった私にとって、はじめの数か月は試行錯誤の連続でした。幸いにも在籍されている職員さんが優しく、親切丁寧に指導を下さりました。特に男性の職員さんとは年齢も近く、何でも相談できる間柄になれ、日々の心の支えになって下さりました。また、行事担当になったり、クリスマスや演劇の主役や、ピアノの伴奏者まで経験させて頂きました。本当に濃密な一年を過ごすことができました。

最後に、施設長の的確な助言、立ち振る舞いが、男の私からみても素直に格好いい、自分も、施設長みたいな存在にいつの日か、なりたい、そう思えることができました。まだまだ未熟者ではありますが、施設長のような存在になれるよう、日々、自己研鑽し、石井がいれば大丈夫、安心できる、と利用者様からも職員さんからも言われるような存在になれたら、と思っています。常に向上心、優しい心を持ち続けられるよう努力して行きます

ので、皆様、今後ともご指導のほどよろしく
お願い致します。

特別養護老人ホーム 望みの門紫苑荘

望みの門紫苑荘に就いて三年目

介護員 大岩 直希

望みの門紫苑荘へ着任して今年が三年目の夏になります。もともと人と接する事が好きで紫苑荘以前は接客業で働いていました。

【接客】ではやはりある程度まで心の距離に一定の壁があり、どんなに心を許してもお客様と店員の位置から抜け出せずもっと寄り添いたい。というもどかしい気持ちから転職を考えました。

【介護】に携わるようになり利用者様との心の距離が近くなってくると接客時の「ありがとう」と同じ言葉でも全く違う「ありがとう」が聞けるとこの仕事をやってよかったと心から実感します。直接的な言葉がなくても、時間をかけて少しずつ心を開いてくださり行動や言葉、表情に変化があるととても嬉しいです。今の気持ちが変わらないまま、何年たっても介護を続けられたら良いなと思えるほど

自分にとってこの仕事は天職だと思います。

コロナ禍での転職だったためコロナが落ちてきた今コロナ以前の介護についての知識が足りないかと実感しています。制限がある中で介護しか経験がなく、コロナ以前の介護がどんなものだったのか実際に体験していないため、不自由さの感覚のずれがあるかなにか埋まりません。感染予防の為仕方なかったとはいえ、利用者様にとって窮屈な生活が続いています。マスクによる弊害。面会の制限。外出の制限など。クラスターを経験し感染拡大は確実に防がなければいけないということは身にしみてわかりましたが、コロナも五類になり緩和が始まりました。感染予防と並行しながらコロナ以前の環境に近づけ、利用者満足度を上げていくことが今後の課題だと思います。

来年の一



月には介護福祉士の資格にチャレンジし更なる高みを目指すため介護知識・技術共に勉強中です。職場のポジションも中堅職員になり、新人職員・実習生の模範になるような介護員になれるように心機一転頑張っていきたいと思っています。

新しい生活の形



特別養護老人ホーム 望みの門富士見の里

介護員 國原ミッシェル

私が望みの門富士見の里に来て、早いもので十年目になろうとしています。この三年間は激動と言って良いと思うほどに大変な日々でした。

日本国中全てが新しい生活スタイルに取り組み中で、私たちも利用者様と共に体調管理や衛生面に気を配り新しい生活をしてまいりました。ご家族様も新しいルールや、制限などご不便を感じたのではないかと思います。

国の発表により新型コロナウイルスの扱いが二類から五類に変わり、少しずつではありますが外出も出来るようになり、ご家族様との面会も制限はありますが叶うようになりま



した。今年の春、施設では特定の制限下での外出が再開となり、お花見ドライブに出かけました。久しぶりに見る外の景色や満開の桜に、利用者様の笑顔も満開で、とても良かったです。

辛い富士見の里にはテラスに上がれば海風や景色と言った癒しを感じられる場所があります。利用者様にも良い気持ちになって頂け

ればとよく皆さんでご利用いただきました。
これからはイベントや様々な取り組みをみんなで考え、より快適に過ごして頂ける様にしています。

しかしながら新型コロナウイルスは無くなった訳ではありません。世の中は気にせず行動制限撤廃などされておりますけれど、あまり大きなニュースにはなっていないんですが近また感染者の増加がかなりの勢いで報告されています。

ですから、私たちスタッフは利用者様と共に体調管理や、衛生面に気をつけてしっかりと感染対策をしながらより良い生活が送れる、笑顔が絶えない環境を作っていけるように日々努力して行きたいと思っています。

老人デイサービス事業 望みの門デイサービスセンター



介護員 田巻 亮

今回は私の昔話にお付き合い願いたい。

私は平成十二年、デイサービスセンターの開設と共にのぞみ会に入職。一番最初にセンターをご利用して下さった方は男性一名、女

性一名の計二名だったことを良く覚えている。
どう接したら良いのか、どう動いたら良いのかと毎日が（戸惑いの）連続であった。

徐々に増えていくご利用者様。一日に十名を超える頃には、日中に入浴介助が終わるのかと不安にもなった。それだけ気持ちも行動も経験不足が否めなかった新人時代。気が付くと十五名、二十名とご利用して下さるご利用者様が増えて行った。

同僚は、公私共に親身に接してくれたクルな先輩N。「馬鹿！何やってんの田巻！」と一喝しながらもきちんと教えてくれる先輩S。いつも穏やかでご利用者様を気遣っていた先輩H。「大丈夫ですか？」と私を毎度助けてくれる先輩K。頼れる肝っ玉母さんのような先輩S。そしていつも大らかな笑顔で見守って下さった、故・中村親之施設長。

わがまま放題、暴れ放題の私を受け入れて下さった諸先輩方に感謝の気持ちでいっぱいであった。

デイサービスに十年近く籍を置き、その後は児童や幼児の施設へ。この四月、約十年ぶりに戻ってきたデイサービスは、のぞみ会に入職した二十年前に抱いた（戸惑いの）感情と似たものがあった。建物、情勢、自分の立

WORLD
Smile
DAY



場と変わった部分が多く、不安を抱く日々であった。

しかし、今も昔も変わらなかったことに気付く。ご利用者様の笑顔である。ご利用者様の笑顔が私を支えて下さっている。そして人は変わったが、私を受け入れて下さる新しい同僚たちがいる。のぞみ会で生きている中で、私は沢山の人の温かさに活かされると実感している。

私の信念は「笑顔」。福祉の道を目指した理由も沢山の方を少しでも笑顔にしたいという一念。デイサービスセンターに関わる全ての方に笑顔になって貰えるように、今一度初心に帰り、笑顔になるためには…ということ突き詰めていきたいと思う日々。自分が受けたのぞみ会の温かさを皆様にお返し出来るように。

就労継続支援事業 望みの門 新生舎

新生舎の職員として

職業支援員 安藤 佳子

今年の四月より望みの門デイサービスセンターから望みの門新生舎へ異動となり四ヶ月が経ちました。私は法人では高齢者の介護支援に長く携わって参りましたが、二〇代の頃は君津市の放課後デイサービスセンターで学童保育に八年従事していました。当時学童を利用されていた子供たちと今回新生舎で偶然にも再会することが出来ました。

昔は体が小さくていつも落ち着かず活発に動いていた子供たちが、パン作りや洗車・環境整備などの仕事に黙々と取り組まれている姿を拝見し、「こんなに大きく立派になって……！」と胸が熱くなったのが新生舎着任初日の感想でした。その成長した子供たちも私のことを覚えていくくださり、「佳子さん、お久しぶりです！」と挨拶をしてくれました。「僕には甥っ子がいるんです。」と話もあり、本当にお互いに月日が経ったな〜と感じました。

新生舎の仕事内容もまだよくわからない私



に利用者の方々は優しく丁寧に教えてくれます。みなさんと作業をしたり、一緒に昼食を食べたり、のんびりと休憩したりと同じ時間を過ごしながら会話も増えるようになってきたのが近況です。

まだまだ新米の私ですが、働く皆さんの足を引っ張らないように一日でも早く皆様から「仕事仲間」として認められるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。

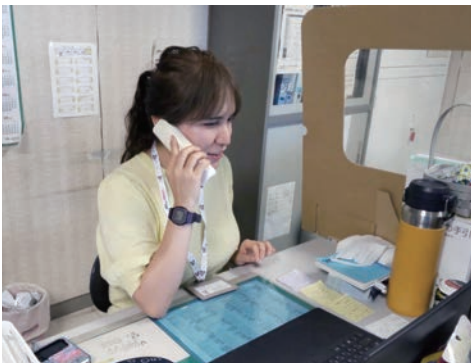
生活困窮者自立支援事業 生活自立支援センターきみつ

愛すべきつつかりさんたち

相談支援員 鈴木 衣紗

皆さんは今までに財布を落としたことがあるだろうか。私は二度ほど経験している。サザエさん級の粗忽者でもなければ、そう何度も失くさないだろう。しかし、私が勤務している生活自立支援センターきみつには、市内から選りすぐりの「サザエさん」たちが毎日やってくるのだ。

うっかり急流に財布を落とした、うっかり税金を滞納して口座を差し押さえられた、うっかり仕事を辞めて住むところが無い、うっかり家がゴミ屋敷になった……等々、枚挙に暇がない。厚生労働省によると、自立相談支援事



業とは次のようなものである。

「生活困窮者からの相談に早期かつ包括的に応ずる相談窓口。ここでは、生活困窮者の抱えている課題を適切に評価・分析し、その課題を踏まえた『自立支援計画』を作成するなどの支援を行う。」

なんと格好の良い響きであろうか！バリバリ悩み事を分析・解決して市民の生活を助ける、スーパーヒーローのような機関ではないか。実際相談にいらっしやる方々も、それを期待しているのだろう。

しかし先述した通り、当センターには「うちのりの猛者」が訪れるし、残念ながら私もヒーローではない。魔法のように「貴方にはこちらの制度が使えますね、はい解決！」と運ぶ筈がないのだ。一緒に悩んで、汗をかいて、時には頭を下げ、一歩ずつ進むのみ。考えてみれば、主イエスもそういうお方だったのではないだろうか。（普段の私を知る方は信じられないであろうが、私はキリスト者である）人間たちはローマの支配から解放してくれるヒーロー的救世主を期待していたが、イエスは違った。大工の息子で、貧しく、痛みや苦しみを知っていて、迫害された人々と共に生きた。そしてその言動全てに、愛があった。

果たして私は、相談にいらっしやる「愛すべきうっかりさん」達に寄り添えているだろうか。彼らのスーパーヒーローにはなれないが、自分もうっかり者の一人として共に生きさせて頂けたら、と思うのだ。

富津市富津地区地域包括支援センター 出張相談会について



相談支援員 飯沼久美子

今年度より地域包括支援センターの新たな取り組みとして【出張相談会】を開催する事



私たちが相談をお受け致します。



センター長
溝口



主任介護支援専門員
飯沼



社会福祉士
長谷川



社会福祉士
竹内



看護師
堀内



事務員
松浦

門
力
フェ



地
域
包
括
支
援
セ
ン
タ
ー



となりました。富津市は人口減少の半面、高齢化率は上昇していますが、人の往来は寂しい状況となっています。今回イオンモール富津から「地域を盛り上げたい、イオンモールの活用について」との提案を受けました。地域の人々の生活インフラを担っているイオンモール富津に於いて、地域包括支援センターの取り組みを実践する事で、高齢者のみならず今後の自分事として、より多くの地域住民に健康維持や介護、福祉について感じて頂き、集いの場になればと考えました。

六月二十七日に第一回目を開催しました。
地域包括支援センターについての講話

(どんな仕事をしているのか)

熱中症の講話、血圧・握力測定・チェックリストを使った健康チェックを行いました。七月・十二月は休止ですが、第四火曜日の午後二時～三時の予定で相談会を行います。八月は介護保険申請について、九月は認知症について、十月は成年後見制度について、十一月は市のサービスについて(社会資源)、一月は介護保険のサービスについて、二月は生き生き百歳体操について、三月は消費者被害・詐欺被害について計画しています。内容に工夫を凝らし、高齢者の皆さんが興味ある事を

テーマとしています。もちろん血圧・握力等の健康チェックは毎回行います。

門カフェについて

高齢者福祉部主催で毎月【門カフェ】を開催しています。毎月第三金曜日十三時三十分から十五時まで。望みの門紫苑荘多目的ホールで開催しています。手作りお菓子とパン、飲み物を用意しています。認知症の方や、家族の介護をしている方、地域にお住いの皆さま、誰もが気楽に集える憩いの場、情報交換の場として活用しています。どなたでも参加できますので気軽にお越しください。



児童養護施設 望みの門かずさの里

学生実習生への期待

保育士 伊藤 成美

私も今から十数年前に県内の短大で保育について学びました。保育実習(保育所)、施設実習(入所型知的障がい者施設・児童養護施設)、教育実習(小学校)と二年間で大きな実習が四回あり、毎回緊張していたのを思

就労能力認定証

この認定証は、当施設での施設実習及び希望体験活動等も終了した時点で、その評価から児童養護施設での就労に必要な力量を備え、十分対応することを認めます。

富津 花子様

施設実習を通して、体力・気力・努力において評価され、当児童養護施設での就労に必要な力量を備え、十分対応することを認めます。 2023.7.1



社会福祉法人「わたしの里」
児童養護施設 望みの門かずさの里
施設長 戸波 京

い出します。保育所と小学校での実習は、責任実習があり、担任を任せられ、クラスを仕切る場面がありました。それに向けて、指導案の作成準備当日：ようやく終わり、全体での反省会……。ひと山越えることができた時は、ほっとした気持ちとやりきったという、僅かながらの自信と、達成感を得ていたように思います。それに比べ、施設実習は、満足感というよりも慣れてきた頃に「もう終わっちゃった……」と物足りなさがあったように記憶しています。

かずさの里では、将来、保育士を目指す学生実習生を県内養成校(大学・短大)より、年間八校二十四名ほど受け入れています。保育士資格を取得する必須単位であるため、社会的養護に興味はなくても、資格を取るための実習：という学生も少なくはありません。

そんな学生にどのように施設養育の必要性や仕事観を知ってもらえるのか、私の日々の悩みです。

学生の多くは、「子どもたちとどう接して良いかわかりません」、「距離感がわかりません」：と日常での関わり自体を躊躇する場面や、子どもたちの主張に引っぱられ、振り回されてしまう場合も多々あります。私たちは、子どもたちの親ではなく、他人です。他人が養育する難しさは二週間の実習で計り知れるものでもありません。しかし、大人としての役割が果たせるように、常に「大人として」という立ち位置を忘れずに、ということ伝えていきます。

と、難しい注文をしつつ、学生に期待すること、それは明るく元気良く遊ぶこと！子どもたちは、遊んでくれる学生さんが大好きです。また、いつでも明るく、笑顔でいる人を求めています。（私も難しさを感じる部分なので、あまり偉そうなことは言えませんが…）このような姿を自然体で表現できる学生には、「ぜひ、里で働いてください！あなたのような方を求めています！」とかずさの里独自の就労能力認定証をお渡ししています。子どもたちと日々成長していきたいと思います。

学生さんが、実習の最終日に、「やっと終わった」と思うのか、「まだまだもの足りない！」と感じるのか？充実した実習となるのかは、私たち職員に課せられている仕事と考えます。社会的養護／施設養育の大切さ、大変さの一端を学生さんと共有できるかが、この二週間弱に問われていると思います。



施設長 白鳥 正道

今年も本格的な夏日に季節の移り変わりを実感しています。園庭で遊ぶ子供たちの様子も駆けっこや砂遊びから水鉄砲やプールと水遊びへ変化しています。夏の強すぎる日差しを避けながらいろんな体験・経験をしていきます。

さて、コロナも5類になり以前のように行事の開催や人々が集まる機会も増えてまいりました。仕切りも撤廃されたところもふえてくるなか、マスクをしない方を見るのも珍しくなくなってきました。ニュースによるとまた流行の兆しもあるとのことですが今までと

は違う対応が求められるようです。さらに地域ではRSやヒトメタニューモなどがはやっていますが、方舟も例外なく地域に根ざしていると思わざるを得ない状況です。

日差しも強くなり更に心配事が増える時期になってきます。乳幼児期の発育発達のは目を見張るものがあります。そんな時期に様々な成功や失敗を重ねながら大きく成長して欲しいと願うばかりです。

よく施設の子でもは経験が少ない、経験不足だと表現されることがあります。自分の経験上、やはり経験する機会が少ないと実感します。一概に自分の子育てと比べることはできませんが、大人の都合を押し付けてきた自分の子育てと、人様の子に対して同じような対応をすることはなかなか難しいのではないのでしょうか。もちろん愛情を注がなければいけないのは当たり



前ですが、自分の経験を仕事で発揮するのはなかなかむづかしいものではないかと感じます。養育について遠慮や忖度があってはいいい養育にはつながらないかもしれません。だからこそ一人一人が本来経験できたこと、自然に経験していなければいけないことに意識を持ち日常生活の中から外出や行事特有の経験まで意図を持った養育にあたらなければと思います。私たちの仕事はあまりその場で評価されにくい仕事です。生活している子どもが評価するようになるにも多少の時間が必要でしょう。場合によっては記憶に残らない場合もあります。だからこそ私たちは日々の情報収集や経験者に学ぶ機会が必要であると考えています。多くの方に施設で育った子供たちのためにお祈りいただければ幸いです。



施設長 佐京 正範

児童名簿を見直していると既に二十九名の退所児童がいた。濃い、ヘビーな症状を見せていた児童揃いであった。特に初期メンバーは

腕や手の甲に残った傷跡と共に強烈な記憶が蘇る。同時に力不足の申し訳なきを振り返る。

この七年間、私たちはとにかく経験を積んだ。「昨年より今年はもっとアップデート」、その想いを毎年積み上げてきた。しかしそこには体調を崩し、気持ちを崩し、我慢の糸が切れ、去った大人の影もある。様々なものを失い、反省と後悔しながらの歩み。これがこれまで歩んだ七年の評価となろう。

八年目の今、記念学園で一番大事にしているテーマワードは「誉める」。

誉めちぎる、誉め称える、誉めそやす、誉め殺す……など何でもござれの賞賛ではなく、「誉める」＝「愛でる」こと。子どもの表情・行動をいつくしみ、感心する。ただ、これがどれほど難しいことか。誉めたのに馬鹿にされたと受け止め罵声を浴びせる子、暴れる子。大人と子どもの認知ズレから誤解や曲解も生じてしまう。誉められ慣れてない子どもを誉める時、大切なのは貴方を心から慈しみ感心したんだとの想いが伝わること。言語(凄いいね、頑張ったね)と共にアクション(撫でる、握手する)が加わり、やっと伝わる子どももいる。そしてその誉める場面を逃さない気づき力。トラブルが起きた際、落ち着く

ことが出

来た子と
静かに見
守ってく
れていた
子に感謝
と良く頑
張ってく
れたねの
一言。即
ち誉める
ことは

情報収集力・観察力の集合
体と云える。

大人が怖い子どもたちに

誉める尊さ、誉められる心地良さを伝える役割を私たちは担っている。この七年

の歩みがそれを可能としている。初期に出会った子たちに今の力があればもっと伝えることが出来たはず。

八年目の夏を迎え、過ぎる頃、くたびれた大人たちを見ることになる。どれだけ誉める夏になったか、その踏ん張り頑張りの対価は必ずあると信じる。



令和 4 年度　法人全体財務諸表

資金収支計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

科　　目	金額(千円)
事業活動収入 (1)	1,890,766
事業活動支出 (2)	1,760,131
事業活動資金収支差額 (3)=(1)-(2)	130,635
施設整備等収入 (4)	1,822
施設整備等支出 (5)	85,729
施設整備等資金収支差額 (6)=(4)-(5)	△ 83,907
その他の活動収入 (7)	9,351
その他の活動支出 (8)	139,910
その他の活動資金収支差額 (9)=(7)-(8)	△ 130,559
当期資金収支差額合計 (10)=(3)+(6)+(9)	△ 83,831
前期末支払資金残高 (11)	809,355
当期末支払資金残高	725,524

※詳しくは独立行政法人福祉医療機構が運営する情報サイト「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」にて公表しています。



事業活動計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日

科　　目	金額(千円)
サービス活動収益	1,866,032
サービス活動費用	1,846,808
サービス活動増減差額	19,224
サービス活動外収益	24,733
サービス活動外費用	25,443
サービス活動外増減差額	△ 710
経常増減差額	18,514
特別収益	4,448
特別費用	11,087
特別増減差額	△ 6,639
当期活動増減差額	11,875
前期繰越活動増減差額	940,820
当期末繰越活動増減差額	952,695
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	6,050
その他の積立金積立額	134,525
次期繰越活動増減差額	824,220

貸借対照表

令和 5 年 3 月 31 日現在

科　　目	金額(千円)
資　産　の　部	
流動資産 (1)	759,870
固定資産 (2)	3,726,213
資産の部合計	4,486,083
負　債　の　部	
流動負債	171,946
固定負債	1,246,217
負債の部合計	1,418,163
純　資　産　の　部	
基本金	716,871
国庫補助金等特別積立金	775,772
その他の積立金	751,057
次期繰越活動増減差額	824,220
(うち当期活動増減差額)	11,875
純資産の部合計	3,067,920
負債及び純資産の部合計	4,486,083

編集後記

思いもよらない二刀流で異次元の活躍を続ける大谷翔平選手。この拙文を執筆中にもヤンキース相手に三試合連続三十五号ホームランを叩き飛ばし敵地ファンからも「大谷は別格だ。もう怒ることすらできない。今すぐ彼を獲得するんだ!」との悲鳴が挙がっています。高校一年の冬、彼の目標は「八球団からのドラフト一位指名」でした。普通、高校生の目標は「甲子園出場」なのですが、彼は「マウンドラチャート」と呼ばれる技法で他者では思いつかない目標に導かれました。これは「八球団から一位指名」を中心に置き、達成のための要素を周りのハマスに、更に具体的な行動を六十四マスに書くことで未来の自分を創造していきます。驚くべきは、彼が八つの要素の中に「人間性」と「運」を入れたことです。人間性を高めるために感謝や礼儀を、運を高めるためにゴミ拾いをするとか決しました。実際、大リーガーとなり試合中グラウンドに落ちていたゴミを拾ってポケットに入れたことが大きく報道されています。このことは、ただのごみ拾いではなく、自分自身を高めるために拾っていたことになります。

創立六〇周年を迎えた望みの門も次の中長期計画の策定に取り組んでいます。私たちも理想の自分を目標にすることで自分と向き合い、言語化できていなかった思いを自分で引き出せるようになる事で、自分を大きく変えられるかもしれません。

(T2)